

図書館だより

目次

OPACの鍵を開けるには 第9代図書館長 石川松太郎先生を偲んで	—田中 功	1
	—天野 晴子	2
日本女子大学における石川松太郎先生に関する文献	—田口 令子	3
大学の図書館ってどんなところだろう？	—村山明日香	4
彩りあるキャンパスライフを	—島村 優花	4
2009年度「学生が読みたい本」を実施して	—————	5
奥深い資料の森に踏み込んでみませんか？	—田島 明子	6
学習院大学図書館と日本女子大学図書館との 相互利用協定について	—————	8



西生田に掲額の「VERITAS VIA VITAE」

OPACの鍵を開けるには

田中 功

図書館にはOPAC (Online Public Access Catalog) といわれる検索システムがあり、利用者は書名や著者などの検索語を入力することで図書館の所蔵資料を探し出すことができる。OPACは「オンライン目録検索システム」などと訳されるが、もっとわかりやすく言えば「コンピュータで誰もが探せる図書館の目録」ということであろう。「誰もが探せる」はずのこのシステム、実際に満足のいく検索ができた人はどの位いるのであろうか。

このような疑問を解くために、毎年2年生の授業のはじめにOPACの利用について聞いてみると少なからず次のような意見に出会う。「図書館のパソコンが上手く使いこなせず、なかなか目的の資料に辿り着けない」「入学してまもなく読みたい本の検索をしてみたが上手くいかず、それ以来OPACを利用しようと思ったことはなかった」「図書館で何度か使ってみたが使いこなせず、文献を探すとき苦労した」「ある作家について書かれた本を探していたが、その作家が書いた本ばかり出てきて困り、図書館の人にもなぜか恥ずかしくて質問できなかった」

そのような意見を聞いた後、OPACの使い方について説明する。すぐに次のような感想が返ってくる。「もっと早くに聞いていれば時間や労力のロスがなかったろうと悔やまれる」「いままで図書館の蔵書が少ないと思っていたが、自分の検索方法が不十分であることを知った。OPACでこのような探し方ができることを知り、友人にも教えてあげたい」。図書館が行うOPAC利用ガイダンスの必要性を実感として捉えられる瞬間である。

英国図書館・情報専門家協会が2007年に図書館員に対して行った調査結果ではOPACの使いやすさの重要度は10を最高値とした場合に9.2という高い数字を示したが、利用者にとってどのくらい自館のOPACが使いやすいかの評価は4.6にとどまっている。図書館員は使いやすさを充分認識しているが、利用者に対してそれに応えていないということを示す数字である。利用者の求めている使いやすさは図書館職員の考えるものとは若干違いがあることがわかる。

このような問題を踏まえて、いま海外では次世代OPACの開発が進んでいる。表紙イメージなどを含めたビジュアル化により、見やすく、また入力時にスペルの修正を表示してくれるなど利用者にとって探しやすい検索結果の向上につながるものが登場してきている。最近ではユニークなOPACも出現している。英国のハダースフィールド大学図書館では本の表紙の色から検索できる“Cover Finder”というOPACを公開している。

OPACをもっと使いやすく活用してもらうには、システムの改良だけでなく、探していく過程でパズルを解くような面白さを感じさせることのできる教え方が必要である。またOPACで表示される書名や著者、出版者、出版年、頁などを見て背後にどのような知識や情報が展開されているかを思い巡らす楽しさも教えるべきだと思う。誰もがOPACの鍵を上手に開けることのできるように。

(図書館長・日本文学科教授)

第9代図書館長 石川松太郎先生を偲んで

天野 晴子

石川松太郎先生は、往来物・寺子屋研究の第一人者であり、近世教育史の代表的研究者の一人でもあられた。1941年に日本教育史学会を設立された御父君の石川謙先生の業績を継承発展され、『日本教科書体系 往来編』全17巻をはじめとする沢山の史料集の編纂や著作に多大な功績を残された。本学を定年退職された後も、精力的に研究・執筆活動を続けられた。会長を務められていた日本教育史学会、(社)石門心学会のそれぞれについても、亡くなられる数ヶ月前まで毎月の例会に出席され、博学な知識と深いご研究をもとに、あたたかなまなざしで私たちを導き励まして下さっていた。日本における教育史学の一時代を築かれた碩学の業績を簡単にまとめることは、とてもできそうにない。それは別の機会に譲るとして、ここでは図書館にかかわる先生のエピソードを少しだけ紹介させていただきたい。

本学における図書館長就任は、前任校の和洋女子大学に続いて2度目のご経験でいらしたが、先生と図書館のかかわりは、それを凌駕するほど長く深い縁で結ばれていたといっぴよい。なぜなら、先生は、研究者としてはもとより、往来物の発掘・蒐集で随一を誇る謙堂文庫の館長としても、広くその名を知られていたからである。往来物とは、一般に「寺子屋」とよばれている近世の手習い塾や家庭で使用するために作成された教科書の総称である。謙堂文庫は、先代の石川謙先生が始められた往来物の蒐集をもとに、松太郎先生による新たな発掘と蔵書の充実が図られ今日に至っている。特筆すべきは、先生がこれらの貴重なコレクションを惜しげもなく一般に公開され、自由に閲覧できるようにされていたことであった。私は各地の図書館や資料館を訪れたが、謙堂文庫で手にとり調べさせていただいている往来物と同じものが、ガラスケースの中で「陳列」されていたり、博物館に「大切に保管」され閲覧できない場面にしばしば遭遇した。「往来物は研究者に利用されてこそ意味がある」というポリシーを貫かれた先生の姿勢は、学者としての見識と実践の一貫性を見事に示されたというほかない。

先生のいらっしゃるころには、常に書物があつた。ちょっと外出される時も、必ず何某かの本を携えて出て行かれた。生涯を通して「ノートを小脇に史料を探す」調査旅行も続けられた。訪れていないところはないのではと思われるほどであった。日本全国の図書館、資料室、文書館、博物館、古書店から街中を隈なく探索され、「歩く風土記」とも称されていた。

先生はいつも穏やかでやさしく、どれほどお忙しくても慌てたりバタバタされるところを目にした記憶がない。研究室は、資料も書架も机の上も、常に井然と整理されていた。クラシック音楽への造詣も深く、昼休みには、コーヒーを片手に交響曲のテープにじっと耳を傾けていらした先生のお姿が浮かんでくる。

ここに、先生が図書館長をされていた時期の『図書館だより』がある。懐かしくめぐっていると、1993年(No.86)掲載の「蔵書印」と題された先生の文章に、次の下りを見つけた。「……20年余りの以前……古書店を廻るうちに、高価ながら何としても手に入れたい書物に邂逅することがあつた。一時間ほども配架されている書棚の前を、行きつ戻りつ、矯めつ眊めつ、とうとう清水の舞台から飛び降りた心境で囊中をはたいて求めた。帰宅して荆妻から『これだからあなたには沢山の現金を持たせられない』と苦言と揶揄を呈された。耐えて蔵書印を捺し、表紙を閉じてそっと語りかけた。『お前を買ったばかりに女房殿よりきついお叱りを受けたよ。でも、表面は激しい性格だが、心根はやさしい女性だよ。一緒にいつまでも、私の傍にいておくれ』」。先生が願われたとおり、誰もがうらやまほほど仲睦まじく人生を共にされた伴侶の寛子先生に看取られ、穏やかな微笑みとともに先生は旅立たれた。先生への感謝とともに、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(家政経済学科准教授)

日本女子大学における石川松太郎先生に関する文献



写真の説明

平成6年5月7日(土)桜楓2号館会議室で開催された、歴代館長(福田陸太郎, 青山吉信, 徳末愛子, 佐藤進, 石川松太郎各先生)座談会で歓談される石川松太郎第9代館長。

石川松太郎先生 日本女子大学における経歴

■昭和56年4月 文学部教育学科教授に就任
■昭和57年4月 日本女子大学大学院文学研究科教育学専攻主任 ■昭和62年4月 文学部教育学科主任 ■平成4年4月～平成7年3月 図書館長

■平成5年4月 人間社会学部教育学科教授 ■平成7年3月 日本女子大学を定年退職

「日本女子大学図書館だより」 石川松太郎先生寄稿文献

■「読まない本, 読めない本」を探す ～図書館員の哀歓～ No.84 1992.6 p1
■「謹呈 大隈伯爵閣下」～著書の命運～ No.85 1992.11 p1 ■蔵書印 No.86 1993.3 p1 ■21世紀の日本女子大学図書館にむけて No.87 1993.6 p1 ■悦んで書物を貸し謝して書物を返す No.88 1993.11 p1 ■日本女子大学校豊明図書館 No.89 1994.3 p1 ■「図書原簿」～現図書館三十周年にあたって～ No.90 1994.6 p1 ■文庫の意味 No.92 1995.3 p1 ■ノートを小脇に資料を捜す No.100 1997.12 p13

『ノートを小脇に資料を捜す 石川松太郎』(No.100 1997.12) 本文より抜粋

私も、1995年3月に退職してより、専攻する教育史関係の資料をもとめて、ノートを小脇に各地の図書館・博物館・郷土資料館などを歴訪しています。めざす資料を発見できた時の喜びは申すまでもありませんが、空振りに終わってしまう場合の方がはるかに多い。刑事なみに、今日までの2か年半で、靴を3足ほど履き潰しました。電子機器が発達して、検索がどんなに便利になっても、自分自身の足を使って勉強するところが図書館だ、の信念は変わりません。

「日本女子大学図書館だより」 石川先生関係文献

■<座談会> 図書館, この30年, そして No.90 1994.6 p3～19 *歴代館長座談会
■現図書館開館30周年記念講演会 シンポジウム『夢のある図書館づくり』 No.91 1995.1 p3～46 *挨拶, パネルディスカッション司会

「日本女子大学図書館友の会 会報」 石川先生寄稿文献

■図書館とわたくし No.40 1982.3 p1～3
■開かれた大学図書館 一本学図書館の創設前後— No.79 1995.3 p1～3

☆日本女子大学心理・教育学会発行「人間研究」(第31号 1995.3 p153～155)

『<送辞>石川松太郎先生のご定年退職にあたって 伊津野朋弘』に、石川松太郎先生経歴、学会および社会における活動等、教育研究業績が掲載されている。

☆謙堂文庫：石川松太郎先生が御父君(石川謙博士)より二代に渡り、日本教育史文献を収集・分類・整理された文庫。豊島区のご自宅に、文庫を造営されて一般公開をし、資料提供をしてこられた。
(館員 田口令子)

大学の図書館ってどんなところだろう？

村山 明日香

『堅くて難しい研究用の本が並んでいる図書館』というのが私の大学図書館に対する想像でした。確かに大学の図書館は私が今まで利用してきた市立図書館や学校の図書室とは違って、難しい研究書が並んでおり、小説やファンタジー好きの私には近寄りたがたい所だと思っていました。そんな私がおそおそおそ大学図書館に入ったのは、大学に入学してから数日経った頃のことでした。どこをどう探せばよいのか全く分からなかった私は図書館のゲートを通った後、カウンター奥にあるエレベーターに乗ってとりあえず5階から1階へと歩き回りました。そこで驚いたのは書物の多さと、ライトが据え付けられた勉強机に大量の書物を置き、熱心に勉強する先輩たちでした。もちろん歩き回っているうちに、『ハリーポッター』など手軽に読める本が並んでいる棚も見つけました。

この日以来、私は授業のない空き時間には図書館に通いつめるようになりました。レポートや課題があるときは歴史の書棚を見回って資料を集め、テスト前には勉強机で集中して取り組み、何もない自由な時間には館内にある話題本や料理雑誌などを読んでいます。

私は史学科で学んでいますが、歴史の書物はもちろんのことその事柄に関連する書棚も見回るようにしています。例えば、教会の歴史について調べるときは、歴史学はもちろんのこと、宗教や建築など様々なジャンルの書棚を歩き回っていると面白そうな本を見つけ出すことが多々あります。これが宝探しのようで私の楽しみの一つになっています。最近では図書館のコンピュータでの新たな利用法も知り、私の大学生活において図書館は大きな比重を占めるようになってきました。

ぜひ正面の回転ドア、もしくは荷物を置いて身軽になりたい方は左のロッカー室のドアから入ってみてください。大学図書館において皆さんが様々な楽しみ方に会えることを願っています。

(史学科・3年次学生)



彩りあるキャンパスライフを

島村 優花

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。桜の開花と共に皆様をお迎えすることを、とても楽しみにしておりました。皆様も、新しい生活のスタートに心躍らせていらっしゃると思います。

さて、皆様は大学図書館と聞いて、どのような印象を持たれるでしょうか？静かに勉強するところ、読書をするところ、きっと考えることは色々だと思います。大学図書館は、高校までの学校図書室や公共図書館とはタイプの異なる図書館です。皆様が考えている以上に、きっといろいろな楽しみ方ができる場所だと思います。私は人間社会学部の学生ですので、西生田キャンパスの図書館についてお話させていただきます。

西生田キャンパスは皆様ご存じの通り、自然に囲まれたとても気持ちの良い環境にあります。図書館にも、お天気の良い日は明るい日差しが差し込み、受付のある2階はとても暖かくて過ごしやすい空間です。パソコンやソファもあり、レポートを仕上げたり、新聞を読んだり、各々自分に合わせてゆったりとした時間を過ごしています。ソファは居心地が良すぎてつい長く留まりすぎてしまうこともあります。

図書館では静かに過ごすのが基本です。レポートを書いたり、読書をしている学生がほとんどです。しかし、図書館での沈黙はとても心地よいものだと思います。それは、それぞれが自分なりの図書館での楽しみ方を見つけ、自分だけの時間を楽しんで活用しているからです。わいわい賑わっているキャンパスの中で唯一と言ってよいほど、しっとりとした沈黙の中に心と身体を浸し、くつろいで過ごせる場所だと思います。

これから始まる大学生活の中で、ぜひ自分なりの図書館での楽しみ方を見つけてください。彩りのあるキャンパスライフを過ごすことができますように。

(文化学科・3年次学生)

2009年度「学生が読みたい本」を実施して

図書館では、学生利用者の「もっと気軽に読める本がほしい」「大学図書館でも話題の本が読めるといいのに」などというご意見を取り入れ、2007年度後期より研究や授業で必要とする以外に「学生が読みたい本」を募集する期間を設けています。2009年度は前期5月11日（月）～5月20日（水）、後期11月4日（水）～11月13日（金）に実施しました。今年度後期「学生が読みたい本」を以て通算5回目の開催となります。

回を追うごとに、このイベントが図書館の恒例行事のような形で利用者の皆さんに浸透しているのが伺えます。今回も、開催前にまた行われるのか、いつ始まるのかという問い合わせを何件かいただきました。楽しみにされていることを感じ、図書館としてもうれしく思います。

応募する人数はもちろん、一人が申し込むタイトル数も増えてきています。ただ、残念なことに予算に限りがあり、すべての希望を叶えるわけにはいかないのが実情です。それでもできる限り多くの人のリクエストに応えられるよう、またいろいろな分野にわたって「読みたい本」をそろえられるよう選んでおります。

「学生が読みたい本」はすぐに手に取れるように、一般の書架ではなく、専用の書架に並べられています。目白は2階複写機そば、西生田は2階閲覧カウンターと参考カウ



「学生が読みたい本」専用書架・目白

ンターの間に書架を設置しています。今回のような図書が選ばれたか、ぜひご自分の目で確かめにいらしてください。

また「学生が読みたい本」で購入した図書はOPACで検索すると所蔵情報に「学生選書」と表示されます。このような検索結果を得た時も専用書架をお探しくください。

来年度も「学生が読みたい本」の募集を行う予定です。日時等詳細が決定次第お知らせしますので、楽しみにお待ちしております。またご自身の研究、あるいはレポート等で必要な図書に関しては、参考係にて購入希望を常時受け付けております。どうぞご利用ください。



「学生が読みたい本」専用書架・西生田



こんな図書が選ばれました（左・目白 / 右・西生田）

（図書館だより編集委員会）



奥深い資料の森に踏み込んでみませんか？



新入生のみなさん、日本女子大学での「大学生」生活はいかがですか？

快適に送れているでしょうか。

まだまだ一日一日を過ごすのに精一杯で図書館まで足を伸ばす余裕はないかもしれませんが、気持ちと時間にちょっと余裕ができたなら是非一度未知の世界「大学図書館」という資料の森に探検に行らせてください。



第一歩：図書館への入り方

図書館の中に入るためには「図書館利用カード」が必要です。新入生の皆さんはすでに登録票を提出していただいていますので、学生証を持ってカウンターへ来ていただければカードをお渡しします。このカードがないと図書館へ入ることができません。大学へ来るときには忘れずに持ってきてください。入口ゲートの利用カードスロットに、このカードを入れるとゲートが開きます。探検への第一歩を踏み出してみましょう。



第二歩：お目当ての本をさがす



中に入ったら次に借りたい本や読みたい雑誌をさがしてみましょう。本学の図書館は本屋さんや公共図書館のように文庫本や新書のコーナーなどはありません。すべて書かれている資料の内容によって分類されて並んでいます。とにかくたくさん本や雑誌がありますから、読みたい本のタイトルや作家が決まっているなら各階にあるパソコンから図書館ホームページの「OPAC」をクリックし検索してみてください。

「どこに何を入れたらいいかわからない！！」という場合は「OPACの使い方」をクリック。「プルダウンってなに？読んでも意味不明だわ」という方はカウンターや参考デスクの図書館スタッフに声をかけてください。簡単な案内をします。じっくりと検索方法を教えて欲しいという方は館内で開催される講習会に是非参加してみてください。OPACで検索して図書館にあることをつきとめたらそのデータにあった「請求記号」をメモして実際に資料をゲットしに出かけてみましょう。どのフロアへ行けばいいかは図書館ホームページの上の方にある目白、西生田それぞれのフロア案内図を参照してください。

日本女子大学
NIPPON WOMEN'S UNIVERSITY

サイトマップ | 大学トップページ | 交通アクセス |

日本女子大学図書館

JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY LIBRARY

本学の蔵書検索

OPAC OPACの使い方

利用状況照会

所蔵新刊リスト

目白 西生田

所蔵複製資料リスト

目白 西生田

情報検索

オンラインデータベース

文献情報検索

新聞記事検索

電子ジャーナル・電子図書館

録音・録音

アーカイブ(歴史記録資料)

その他

電子ジャーナル一覧 A-Z

お役立ちリンク

文献を探す

図書・雑誌の探し方

雑誌論文の探し方

雑誌論文をさがす

目白 英語

資料タイプ別にかがす

テーマ別にかがす

『現代女性とキャリア連携専攻』推薦図書リスト

学外の蔵書検索

What's New

緊急のお知らせはこちらです。

2010.1.28 2010年1月30日(土)～3月26日(金)、西生田図書館九十年館中庭改修工事のため図書館正出入口が使えません。研究棟からの入口をご利用ください。この間、夜間通知ホストも研究棟側に移動します。

2010.1.28 図書館(目白)1階4階トイレの改修工事が2010年1月30日(金)～3月末予定で行われます。工事対象の階・階トイレは使用できません(2月10日(水)～12日(金)は3階トイレも使用できません)。騒音等で迷惑をおかけいたしますが、ご理解のほどお願いいたします。

2010.1.6 開蔵11(朝日新聞データベース)の「昭和(戦前)紙面データベース」のトラブルは昨年年末まででしたが引き続き各自キャンパスで3月末まで行っています。1926年～1945年の約85万件の記事などの紙面イメージが検索・閲覧できます。「オンラインデータベース」の開蔵11(1945年～現在)と同じ画面から利用できます。(4月1日より)

2009.12.8 2009年度後期「学生が読みたい本」の利用が可能になりました。多数のご応募ありがとうございました。

2009.10.21 日本女子大学図書館と、学習院大学図書館と相互利用協定を締結しました。

2009.11.25 図書館だよりNo.136(2009.11.20発行)配布中です。

過去のお知らせ

開館カレンダー 本日は2010年2月23日(火)です

■ 休館日 詳細情報は各キャンパスのリンクより確認ください。

2010年2月												2010年2月															
目白(詳細情報)						西生田(詳細情報)						目白(詳細情報)						西生田(詳細情報)									
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
7	8	9	10	11	12	13	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	21	22	23	24	25	26	27	28							28						

本ホームページは携帯電話に対応しておりません。携帯電話からのアクセスはご遠慮ください。

図書館について

図書館概要

フロアマップ

目白 西生田

利用案内

総合案内

在学生

本学教職員

卒業生

友の会会員

学習院所属者

F-Campus受講生

生涯学習センター受講生

学外者

サービス時間案内

資料配置の簡単な案内

学内刊行物

紀要

図書館だより

友の会講座・読書会ご案内

2008年度

2008年度

所在地

目白
〒112-8681
東京都文京区目白2-8-1
TEL 03-5981-3185

西生田
〒214-8565
神奈川県川崎市多摩区西生田1-1-1
TEL 044-952-6937

第三步：本を借りる

お目当ての本を手にすることができたら貸出手続きをしましょう。本と利用カードを2階カウンターに持っていけばOK。学部生は5冊、大学院生は20冊までの貸出ができます。返却期限日が押されたしおりがはさまれていますので、必ずその日までに図書館に返却してください。期日を過ぎてしまうと遅れた日数分の貸出停止という罰則を受けることになるので注意してください。



第四步：雑誌をさがす

では次に雑誌をさがしてみましょう。新聞や『ぴあ』など簡単に目を通したい雑誌は図書館入口すぐのブラウジングコーナーで読むことができます。

探したい雑誌のタイトルがわかっている場合は、図書と同様にOPACで検索することができます。目白の和雑誌は1階、洋雑誌は5階、西生田は和・洋ともに1階と図書とは違うフロアにあります。雑誌の館外への貸出はしませんので、館内で読み必要なページはコピーをとって利用してください。



第五歩：パスワードをゲットする

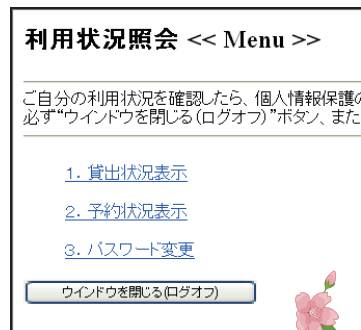
図書や雑誌のさがしかたがわかってきたら、次のステップです。

図書館のカウンターで利用カードを提示して「パスワードを発行してください。」と言ってみましょう。パスワードをゲットすることで次の段階へ

踏み出すことができます。

図書館ホームページにある「利用状況照会」を使うことができるようになります。自分が今どの本を借りているのか？返却期限はいつまでかを知ることができますし、他の人が貸出中の本を予約することもできます。

1度だけですが貸出中の図書の期限を延長することもできます。ただし、その本に予約が付いていない、返却期限に遅れていない等ちょっとした約束事がありますので注意事項をよく読んでからチャレンジしてくださいね。



さらにステップアップ：いろいろな施設を利用する

図書館は本や雑誌を置いてあるだけの施設ではありません。空いた時間に勉強するスペースもありますし、何人かで集まって話し合いながら研究のできる部屋も用意されています。

メディアセンターと同じ仕様のデスクトップパソコンを使うこともできます。またメディアセンターからノートパソコンを借りてきて接続することもできます。

CDやDVDを視聴する場所もあります。たくさんのデータベースから論文を探し、プリントアウトする！ということもできます。

最初はなんのこともやわからないことだらけかもしれませんが、勉強や研究を進めるために、これらの施設を上手に利用してみてください。



最後にみなさんをお願いします。館内では大きな声でおしゃべりをしない、飲食禁止、資料を汚さないなどちょっとした約束事を守って自分たちの大学の図書館をみんなが気持ちよく使えるようにしてください。あなたにとって未開の森が身近なオアシスになるよう、ちょっと勇気を出してその第一歩を踏み出してみてください。

(館員・閲覧係 田島明子)

学習院大学図書館と日本女子大学図書館との相互利用協定について

日本女子大学図書館は、学習院大学図書館と相互利用協定を締結しました（2009年11月1日施行）。

協定の調印式は、両大学の図書館長および図書館員が出席して2009年10月21日（水）に学習院大学において執り行われました。

日本女子大学の学生・教職員は、本学発行の学生証または教職員証を提示することにより、学習院大学図書館の利用（資料閲覧・図書の貸出）ができるようになりました。この協定が、図書館資料のより活発な利用につながり図書館利用が促進されることを願っています。



調印式にて
（左・塩谷清人学習院大学図書館長
右・田中功日本女子大学図書館長）



日本女子大学 学生・教職員の学習院大学図書館利用

- ◎対象 日本女子大学発行の学生証または教職員証の所持者
- ◎サービス内容 館内閲覧，複写，図書の館外貸出（雑誌等貸出不可）
- ◎入館手続き 日本女子大学発行の学生証または教職員証を提示
- ◎利用期間 試験期（7月・1月）を除く開館日
- ◎利用に当たっての注意事項 大学図書館のみ利用可

法経図書センター，理学部図書室，文学部各研究室など，学部の図書館・研究室等にある資料については，本学図書館の参考係に相談してください。参考係を通した事前連絡が必要です（貸出不可）。データベース等は利用できません。

* 詳細は，図書館 HP または館内にある配布物をご覧ください。

* 学習院大学図書館の規則・マナーを守って利用しましょう。



本学図書館に昭和20年11月から昭和57年3月まで勤務された相馬文子氏は、平成21年10月8日に逝去されました。相馬氏は昭和41年4月より昭和57年3月まで、図書館の事務主任を務められました。ご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記 新入生の活発な利用が待たれる春である。当館は卒業生も利用可能、ぜひご再訪を。ラテン語の「VERITAS VIA VITAE」（生を通しての真理）は、図書館開館にあたって学生のために学内外の先生方が選ばれた言葉で、目白図書館正面玄関に刻まれている。巻頭写真は西生田図書館玄関ホールに掲額の飯山智子館員の作品、西生田図書館開館時に作成され、以来あたたかな筆致で利用者を迎えている。（中曽根）